



# 第6次高畠町総合計画

2019-2028

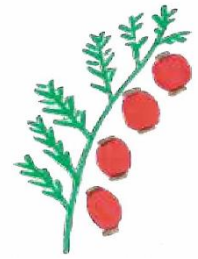
笑顔があふれ、温かいつながりが  
実感できるまちをめざして

あふれる  
うふふ  
ゆきかう  
またね  
∞ ∞

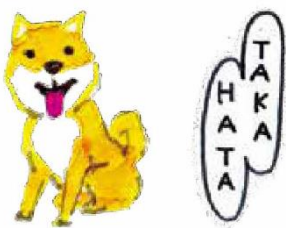
指標の達成状況及び  
施策評価  
(令和2年度)

高 畠 町





1.将来像と基本目標の体系図について……………	1
2.基本計画における関連指標について……………	2
3.評価区分について……………	2
4.指標の達成状況	
(1)個別指標の進捗状況……………	3
(2)「めざす町の姿」ごとの進捗状況……………	4
(3)「まちづくりの基本目標」ごとの進捗状況……………	5
5.令和2年度の総括と今後の取り組みについて……………	10



# 1. 将来像と基本目標の体系図について

令和元年度を初年度とする第6次高畠町総合計画(令和元年度～10年度)において、みんなでめざす町の将来像を「ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」」と表現しました。

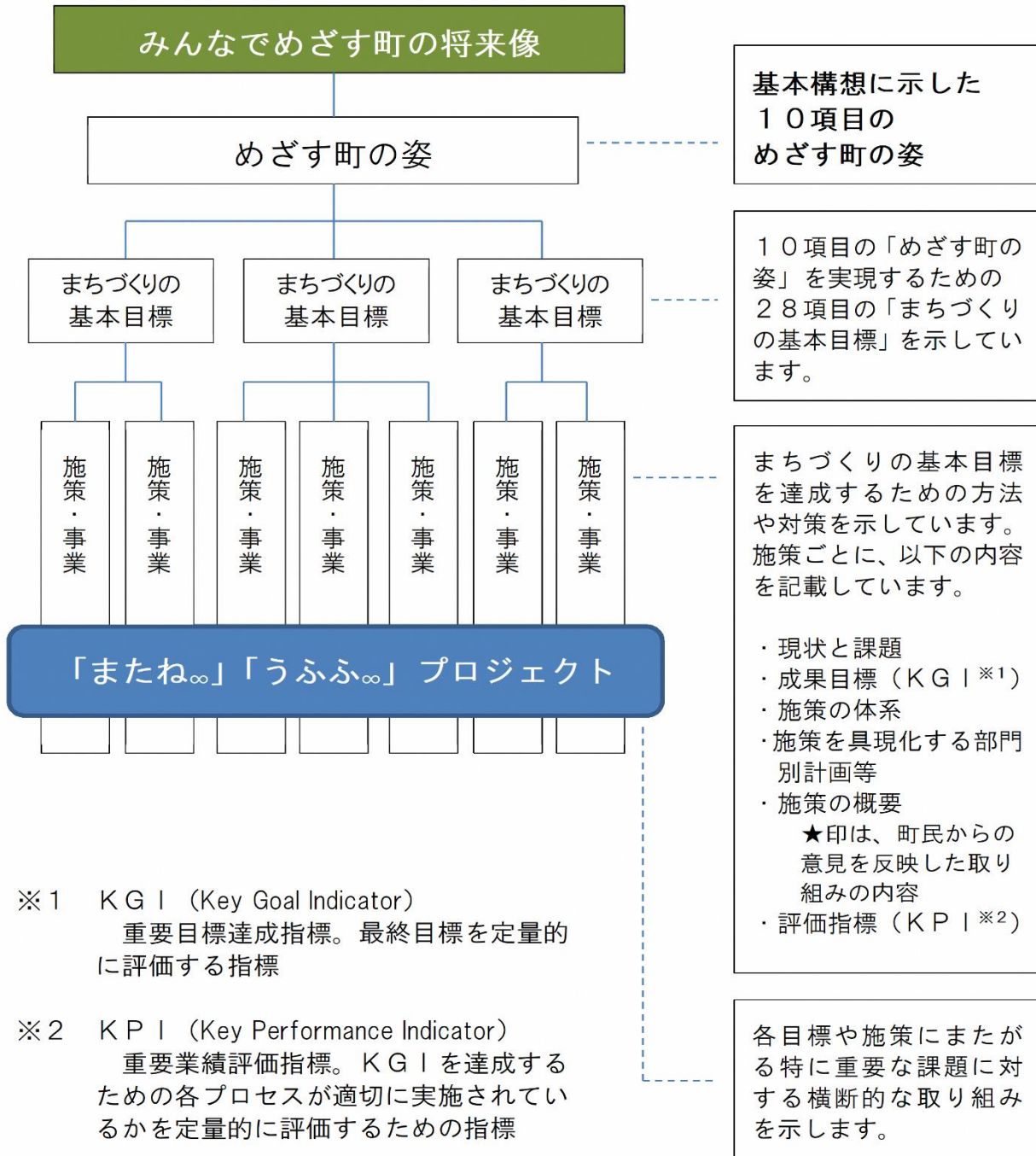
高畠町の未来において一人ひとりが『しあわせ』になることを実現するため、ライフステージごとに10項目の「めざす町の姿」を設定し、28項目の基本目標を掲げています。

将来像	共通視点	ライフステージ	めざす町の姿	まちづくりの基本目標		
ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」	楽しむ(うふふ) × つながる(またね) × 未来へつながる(∞無限大)	高畠町で暮らす人の「しあわせ」のために	「生まれてくる」ひとのために	高畠町で子どもを産み育てたい人が増えている	新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する 安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	
			「育つ」ひとのために	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	子どもが健康にすくすく育つ環境を整える 子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす 課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	
			「学ぶ」ひとのために	学びの場が充実して、魅力ある“高畠人”が育っている	子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う 学ぶ気持ちを大切にし、地域の教育力をアップさせる 「ちがいに」を認めることができる人を増やす	
			「働く」ひとのために	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす 資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる	
				夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	一人ひとりの生活にあった多様な働き方の選択肢を増やす 新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	
			「暮らす」ひとのために	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす 安心して快適に生活できる環境を整える みんなが地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしきみを広げる	
				一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす 地域の中でゆるやかに支え合うしきみを広げる	
			「年を重ねた」ひとのために	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす 住み慣れた地域で、安心して暮し続けられる環境を整える	
			「次世代の」ひとのために	みんなで未来に向けたまちづくりを進めている	地域の自然や生態系を守る活動を広げる	持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす
					歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	夢や志を持ち活躍する若者を増やす
		協働でまちづくりを進めるための環境を整える				
		高畠町とつながる人に	「町外に暮らす」ひとのために	高畠町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	町内外に町の魅力を効果的に発信する	
					高畠町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	
					交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	
					移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	

## 2. 基本計画における関連指標について

28項目のまちづくりの基本目標を定め、それぞれに成果目標を設定しています。そして、目標達成のため施策を設定し、一つひとつに具体的な数値等で示した115の関連指標を設定しています。

指標は、前期計画の最終年度である令和5年度の目標値に対し、達成状況を毎年確認し、公表することとしており、今回は計画の初年度となる令和元年度の達成状況等について分析・評価したものです。



## 3. 評価区分について

5年後の目標値への達成状況に応じて、「◎」「○」「△」「×」の4段階・記号を用いて評価します。評価基準は次のとおりです。

◎⇒5年後の目標値に達成
○⇒現状値から改善 ・積み上げの数値目標の指標においては、順調に数値を伸ばしている場合 ・単年度ごとの数値をもって比較する指標においては、現状値より実績がある場合
△⇒現状値と同等 ・現状値から数値が伸びず、現状値と同等であった場合 ・年度中に評価指標を測るための調査がない場合
×⇒現状値より後退 ・様々活動や取組を行っても現状値より後退した場合

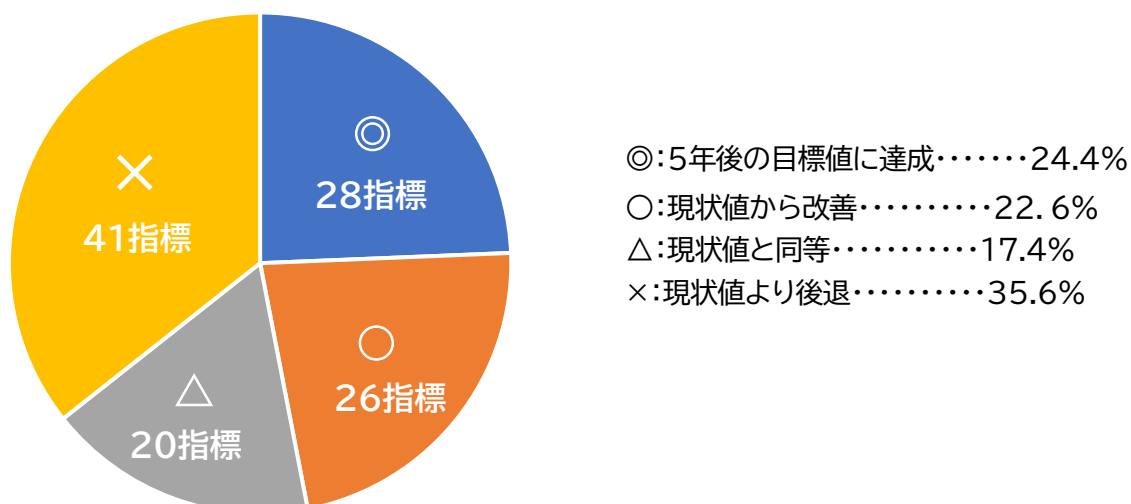
#### 4. 指標の達成状況

##### (1) 個別指標の進捗状況

まちづくりの基本目標ごと合計115の評価指標を設定し評価を実施しました。

No.	めざす町の姿	まちづくりの基本目標	指標数
1	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	3
		②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	4
2	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	5
		④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	6
		⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	2
3	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	5
		⑦学ぶ気持ちを大切にし、地域の教育力をアップさせる	5
		⑧「ちがいがい」を認めることができる人を増やす	2
4	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	5
		⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛りあげる	6
5	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	3
		⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	2
6	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	2
		⑭安心して快適に生活できる環境を整える	8
		⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	6
7	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	6
		⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	3
8	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	2
		⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	7
9	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	5
		㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	4
		㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	2
		㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	4
10	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	3
		㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	2
		㉖高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	5
		㉗交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	5
		㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	3

【図1】全体的な(各指標の)達成状況の割合



「◎:5年後(10年後)の目標値に達成」した指標は、28指標で全体の24.4%、「○:現状値から改善」した指標は26指標で全体の22.6%となりました。

「△:現状値と同等」は20指標で全体の17.4%、「×:現状値より後退」は41指標で全体の35.6%となっており、現状値から改善となった以上の指標が全体の47.0%となっています。前年度(令和元年度)の同指標が67.0%でしたので、前年度比較して停滞または後退する結果となりました。

(2)「めざす町の姿」ごとの進捗状況

No.	めざす町の姿	指標合計	○以上	△以下	◎	○	△	×
1	高畠町で子どもを産み育てたい人が増えている	7	28.6%	71.4%	0	2	2	3
2	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	13	84.6%	15.4%	8	3	1	1
3	学びの場が充実して、魅力ある“高畠人”が育っている	12	33.3%	66.7%	3	1	3	5
4	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	11	27.3%	72.7%	2	1	3	5
5	夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている	5	20.0%	80.0%	0	1	0	4
6	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	16	62.5%	37.5%	3	7	2	4
7	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	9	33.3%	66.7%	1	2	5	1
8	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	9	44.4%	55.6%	2	2	2	3
9	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	18	55.6%	44.4%	6	4	0	8
10	高畠町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	15	40.0%	60.0%	3	3	2	7
合計		115	47.0%	53.0%	28	26	20	41

評価の「○以上」と「△以下」で見ると、ライフステージ「育つ」ひと(No.2)の子育て等施策に関して高水準を示しています。また、「生まれてくる」ひと(No.1)は前年度(令和元年度)の「○以上」が85.7%だったのに対し、令和2年度は0%となっています。

「学ぶ」ひと(No.3)のための指標は、○以上の評価が前年度の高水準(83.3%)から、低水準(33.3%)となっています。

「働く」ひと(No.4～5)のための指標は、他のライフステージと比較して最も低く、特にNo.5の目標の評価が低水準となっています。

「暮らす」ひと(No.6～7)のための指標も停滞・後退しているものの、No.6は他のライフステージと比較して○以上の評価が多くなっています。

「年を重ねた」・「次世代の」・「町外に暮らす」ひと(No.8～10)のための指標は、すべてにおいて○以上の評価が△以下の評価を下回りました。

### (3)「まちづくりの基本目標」ごとの進捗状況

まちづくりの基本目標	指標 合計	◎	○	△	×
①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	3	0	1	0	2
②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	4	0	1	2	1
③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	5	3	1	0	1
④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	6	4	1	1	0
⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	2	1	1	0	0
⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	5	0	1	3	1
⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	5	2	0	0	3
⑧「ちがいを認めることができる人」を増やす	2	1	0	0	1
⑨若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす	5	2	0	1	2
⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる	6	0	1	2	3
⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	3	0	1	0	2
⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	2	0	0	0	2
⑬自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす	2	0	0	0	2
⑭安心して快適に生活できる環境を整える	8	1	5	1	1
⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	6	2	2	1	1
⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	6	0	0	5	1
⑰地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる	3	1	2	0	0
⑱生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす	2	1	1	0	0
⑲住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	7	1	1	2	3
⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	5	2	1	0	2
㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	4	1	2	0	1
㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	2	0	0	0	2
㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	4	2	0	0	2
㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	3	1	1	0	1
㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する	2	0	0	1	1
㉖高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす	5	1	1	0	3
㉗交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	5	2	0	0	3
㉘移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	3	0	2	1	0
合 計	115	28	26	20	41

<b>1)高島町で子どもを産み育てたい人が増えている</b>	
<b>① 新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する</b>	<p>高島高校の協力を得て実施していた「赤ちゃん先生ふれあい体験授業」は新型コロナウイルス感染症対策から実施できなかった。</p> <p>「高島町結婚推進支援事業」はコロナ禍のため補助金の交付対象となる事業回数が減ったことや参加者の減少が要因となり、現状値を下回った。</p>
<b>② 安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える</b>	<p>「産前産後サポート事業や妊婦訪問、新生児・産婦訪問」は現状値と同等の状況であった。引き続き母子健康手帳交付時などにパンフレットの配布を継続しながら支援を行っていく。</p> <p>「ゆったりと子どもと過ごせる時間がある」とする母親の割合が現状値を下回っているため、引き続き母親への支援を強化していく。</p>
<b>2)みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている</b>	
<b>③ 子どもが健康にすくすく育つ環境を整える</b>	<p>「屋内遊戯場内の子育てボランティア事業」は高校生や専門学生などが夏休み等を利用して活動してくれた。これからも広くボランティアを募って、地域の方が活躍できる場としても定着していくようにPRしていく。</p> <p>「サード（学びと交流の場）」については、令和2年度は新たに2か所で開催し、午後の部をつくったことで、中学生の参加が増えるなど利便性向上が図られた。今後は、交通手段がない家庭の児童が参加できるしくみをつくり、家庭事情によらない支援体制を構築していく。</p>
<b>④ 子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす</b>	<p>「放課後児童クラブの定員数」については、各放課後児童クラブにおいて支援員の確保に努め、目標達成することができた。安定経営化及び事業の充実化を図るために運営を法人移行又は移管を進めていく。さらに、老朽化している施設の整備についても検討していく。</p> <p>「ひとり親家庭生活応援給付金及び住まい応援給付金事業」は、就業できるひとり親が少なく、対象に限られる事業であるが、通学応援給付金の新設など充実を図りながら、子ども家庭支援コーディネーターの配置や子ども家庭福祉相談等も行い、ひとり親の子育てと就業の両立、生活や心の安定を図っていく。</p>
<b>⑤ 課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える</b>	<p>「医療的ケア児に関する協議の場」については置賜3市5町で連絡会を開催している。庁内における保健、福祉、保育、教育の連携をさらに強化して支援体制を構築していく。</p> <p>「育児講座」は屋内遊戯場の子育て支援センターの行事として開催。町内の方を優先に参加を募ったが、町外の方の申込が多いため、町内向けPRの仕方を工夫していく。働いている保護者が多いので、土曜日の開催も実施して交流の場を増やしていく。</p>
<b>3)学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている</b>	
<b>⑥ 子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う</b>	<p>「地域教材を活用した授業」は、コロナ禍により地域行事が中止になったり、地域の方と関わる授業ができないなど、地域を意識する機会が十分にもてなかった。</p> <p>「探究型学習」も、コロナ禍により探究的な課題には取り組みづらい状況ではあったが、一人一台端末の導入により、今後ICTを活用した主体的な学びが期待できる。</p> <p>「学校への地域人材の参加」も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動を中止・縮小・制限した。学校を核として地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業を展開し、地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに地域コミュニティの活性化を図っていく。</p>
<b>⑦ 学ぶ気持ちを大切にし、地域の教育力をアップさせる</b>	<p>「図書館の利用者数」については目標値を大きく上回った。コロナ禍にあって、自主事業など制限付きで実施するものも多かったが、企画展などの読書案内で利用を増やすことができた。今後は展</p>



	<p>示室の活用も積極的に取り入れ、読書案内などと連携させて利用促進を図っていく。</p> <p>「出前講座・町民講座」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動を行う実施団体が少なかった。今後は学校で活用できるような授業向けメニューも検討する。</p>
	<p><b>⑧ 「ちがいを認めることができる人を増やす</b></p> <p>「人権教室」はコロナ禍により実施できない学校もあったため、現状値を下回った。</p> <p>「高島町民生委員児童委員協議会」は毎月の月例会や全員研修などを実施し、継続して民生委員・児童委員の資質向上を図った。</p> <p>人権擁護委員や教育相談員は、コロナ禍により活動を十分に行えなかった。</p>
<p><b>4) 技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている</b></p>	
	<p><b>⑨ 若者があこがれる「カッコいい」産業を増やす</b></p> <p>「若者の就農者数」は、現状値から増加。「農業産出額」も現状値から増加している。今後も就農希望者の実情に応じた就農相談を行っていく。</p> <p>「製造品出荷額」や「商業年間商品販売額」は、新型コロナウイルスの流行で急速に景気が悪化した影響を受けた。需要回復や経営の効率化、事業の多角化を目指す事業所を応援し、厳しい経営環境での事業の維持・発展を図るため、設備投資等補助事業を継続していく。</p>
	<p><b>⑩ 資源や人のつながりで、地域産業を盛りあげる</b></p> <p>「新事業活動推進サポート補助事業」は令和2年度の応募者がいなかった。新型コロナウイルス感染症流行の影響により売上の減少や原材料不足による減産を強いられる製造業者が多かったため、資金繰りや設備投資、事業の多角化、販路拡大などをサポートする事業を引き続き実施して製造業の振興を図っていく。</p> <p>「地域企業団体交流事業」は、新型コロナウイルス感染症の影響で展示会の中止が相次いだため、出展の機会が消失し、交流事業の実施が困難となった。オンライン商談会など可能な形での交流を行いながら情報収集や連携の機会を確保するよう努めていく。</p>
<p><b>5) 夢や希望が実現しライフスタイルに合った働き方ができている</b></p>	
	<p><b>⑪ 一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす</b></p> <p>「新規高等学校卒業求職者の県内への就職率」及び「職業体験・企業説明会に参加した小中高校生の人数」いずれも現状値から減少となった。関係機関と連携し、町内企業を知ってもらう機会を作り、町内・県内就職者を増やしていく。</p> <p>また、多様な働き方の情報提供については、フェイスブック、メールマガジンなども活用して機会を増やしていく。</p>
	<p><b>⑫ 新しいビジネスを創出しやすい環境を整える</b></p> <p>「創業セミナー受講者数」及び「町の支援により創業・起業した者（社）の数」いずれも現状値から減少となった。セミナー参加によるメリットを発信して起業への関心を高めていくとともに、起業意欲の高い人材に必要な知識と資金を提供できるよう支援を継続していく。</p>
<p><b>6) 安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている</b></p>	
	<p><b>⑬ 自然とともに、心豊かな暮らしを楽しむ人を増やす</b></p> <p>「自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数」はコロナ禍により目標値を下回る結果となった。感染症対策を図りながら現状の取り組みを継続していく。</p>
	<p><b>⑭ 安心して快適に生活できる環境を整える</b></p> <p>「橋梁の老朽化対策実施数」、「都市公園リニューアル事業実施数」、「歩道整備総延長」は現状値を上回る結果となった。「水道管路の耐震化率」は現状値と同等となったが、今後高島地区老朽管更新事業で1.2km、他事業で1.0kmの更新を計画し、耐震化率の1%向上を目指す。</p> <p>「高島町住宅リフォーム支援事業による支援件数」は、住宅リフォーム支援事業が周知により活用され目標値を達成している。その一方で空き家利活用の実績はなく、空家所有者へのPRを続けながら空き家バンクへの登録を増やしていく必要がある。</p>
	<p><b>⑮ みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる</b></p> <p>「福祉防災マップ作製集落数」と「自主防災組織率」は現状値から前進している。自主防災組織については、既存の町全体の自主防災組織連絡協議会から地区ごとの連絡協議会への転換により、地</p>

	<p>域特有の災害リスクの共有ときめ細かな研修・訓練の機会を行う環境ができたことで、地域の防災意識が高まっている。</p> <p>「消防団員数」は現状値から減少する結果となった。少子化と人口減少の影響が大きく影響しており、団員の増加自体難しい状況となっている。</p> <p>「認知犯罪件数」と「交通事故」は、ともに減少して目標値を達成しており、引き続き啓発活動を行っていく。</p>
<p><b>7)一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている</b></p>	
<p><b>⑩ 生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす</b></p>	
<p>「地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぐための各施策」については、5年に一度の「げんきアンケート」を指標としているため、指標の達成状況が調査できなかった。指標の再検討が必要と思われる。</p> <p>こころの健康づくりを進めるための「ゲートキーパー養成講座」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会等当初の計画通りに実施できなかった。今後は感染症予防に配慮しながら、関係機関との連携を強化し、計画の効果的な推進を図っていく。</p>	
<p><b>⑪ 地域の中でゆるやかに支え合うしくみを広げる</b></p>	
<p>「ボランティアセンター登録者数」は目標値には到達したが、今後、各団体の会員数減や解散などで登録者数が減少することも想定されるため、対応策が求められる。</p> <p>「子どもの居場所づくり運営支援事業」は、主にひとり親家庭の子どもを対象にした居場所（サード）2か所で遊びと学習支援を実施。R2年9月には町内事業者が新たに子ども食堂を立ち上げ、町内に2か所となった。各団体に町から補助金を交付して活動を支援している。子ども食堂においてひきこもり者のボランティア活動も受け入れがあり、ゆるやかなつながりや交流の場もできている。今後は、ひきこもり者支援団体への運営支援の充実を図り、若者等の社会生活自立の促進、支え合える関係の構築支援を行っていく。</p>	
<p><b>8)年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている</b></p>	
<p><b>⑫ 生きがいを持ち人生を楽しんでいる人を増やす</b></p>	
<p>「地域の茶の間の開設数」については、屋代地区に「もりの里茶の間ひなたぼっこ」を立ち上げた。今後も既存団体への指導相談と未開設地区である亀岡地区への働きかけを継続していく。</p> <p>「住民主体の介護予防の場」は目標値を上回る結果となった。生活支援コーディネーターの働きかけもあり、10か所に新規立ち上げを行った。今後も既存団体への指導相談と未設置集落への働きかけに取り組んでいく。</p>	
<p><b>⑬ 住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える</b></p>	
<p>「家族介護者交流会」、「認知症カフェの利用者数」は、現状値を下回る結果となった。新型コロナウイルス感染症防止のため利用が一時中止となったこと等による。感染防止を図りながらの実施方法について検討が必要である。</p>	
<p><b>9)みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている</b></p>	
<p><b>⑭ 地域の自然や生態系を守る活動を広げる</b></p>	
<p>「自然体験教室・自然体験イベント」はコロナ禍の状況下で、軒並み中止や延期となり目標値を下回った。今後は染拡大防止に伴う活動実施ガイドラインを作成して提供可能な活動内容を検討していく。</p> <p>「有機・特別栽培水田面積」は、現状値から減少する結果となった。水稻の作付面積の減少に伴い、有機米等の面積も減少した。今後は有機農業推進委員会と連携しながら作付け面積の増加を図る。</p>	
<p><b>⑮ 持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす</b></p>	
<p>「公共施設の温室効果ガス排出量」は、目標値を上回る結果となった。糠野目小学校の照明をLED化したこと等により、温室効果ガス排出量の削減に繋がった。「再生可能エネルギー導入容量（固定価格買取制度適用分）」についても現状値から前進した。再生可能エネルギー設備導入に対し、補助金を交付し支援を行うことで導入の促進を図ることができたため、継続して取り組んでいく。</p> <p>「最終処分廃棄物量」は現状値を下回った。災害でのごみ排出増加や新型コロナウイルス感染症による外出自粛により片付けや買い替えが盛んになり増加している傾向がある。</p>	

	<p><b>㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす</b></p> <p>コロナ禍により事業の中止・休止が相次いだことにより、「歴史文化学習会の開催数」・「文化遺産の活用事業数」のいずれの指標も現状値を下回った。今後はコロナ禍、withコロナ時代を見越して安全を確保したうえでの事業実施を試みる。</p>
	<p><b>㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす</b></p> <p>「40歳未満の若者を対象とした町・地区事業の実施回数（年間）」は現状値を下回った。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動の中止が相次いだ。感染拡大防止に伴う活動実施ガイドラインを作成して提供可能な活動内容を検討していく。「中高生や若者によるまちづくり企画の支援回数」は、町の新人研修、東大F S、外大S T、九里学園S T、出前講座等の手段により目標値を達成している。</p> <p>「若者の夢や志を支援するプロジェクト事業実施回数」は、5事業実施された。コロナ禍を見越して安全を確保したうえで自主的な活動を行った。携わる青年団体連絡会構成員の活動を支援し、事業を再開していく。事業規模・内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。</p>
	<p><b>㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える</b></p> <p>「財政力指数」は、町民税法人税割や地方消費税交付金などの増加により、基準財政収入額が増加したため、目標値を上回る結果となった。</p> <p>「派遣研修受講職員の延べ人数」は、現状値を下回る結果となった。</p>
<p><b>10)高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている</b></p>	
	<p><b>㉕町内外に町の魅力を効果的に発信する</b></p> <p>ふるさと名物応援宣言の実施には至っていないが、ふるさと納税返礼品開発事業において、新商品7つを追加することができた。また、高島の農産物と加工品を組み合わせた返礼品も登録し、高島の食のポテンシャルを全国へ発信できている。今後も、ふるさと納税制度を活用したブランド戦略を進めていく。</p> <p>「首都圏プロモーションの実施回数」は、オンラインモニターツアーを実施。首都圏在住の方を対象に募集し、定員20名の参加をいただいた。アフターコロナを見据え、オンラインによる関係機関との連携を強化することができた。今後も継続して、季節ごとにメニューを変えながらプロモーション事業を展開していく。</p>
	<p><b>㉖高島町ならではの発想による観光を生み出し、訪れる人を増やす</b></p> <p>「町内宿泊者数」、「外国人宿泊者数」とともにコロナ禍により激減し、現状値を大きく下回った。コロナ禍の中でも出来ることとして、現在、観光資源の発掘及び磨き上げに取り組んでおり、高島ならではの新たな観光プログラムをつくり、誘客を図っていく。</p> <p>「町公式ホームページ観光サイト閲覧数」は、目標値を上回る結果となった。コロナ禍でイベントが限られ、情報の更新が滞った。たかはたブランドや町の観光資源についてページを作成し、自宅にいても情報が得られるようなサイト作りを行う。</p> <p>「町公式YouTubeチャンネル再生回数」は、新規動画を31本更新し現状値を上回った。コロナ禍で開催が難しい講座等の動画配信を検討する。</p>
	<p><b>㉗交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす</b></p> <p>「町内農業体験者数（年間）」や「熱中小学校プロジェクトによる交流人口（年間）」はコロナ禍のため、農業体験者の受け入れ中止やオンライン形式の導入により現状値を下回った。</p> <p>「県外の企業・自治体・大学等と協働で3年間以上継続して行っている事業の数（累計）」については、コロナ禍の状況下ではあったが、関係団体と可能な範囲で実施し、目標値を上回った。今後も新型コロナウイルス感染症対策やwithコロナ時代を見越して安全を確保したうえで事業実施を試みる。</p> <p>「ふるさと納税の申込延べ人数（年間）」については、ふるさと納税サイトを拡大し、返礼品登録を200品以上に増やすことにより、目標値を大きく上回った。今後はWEB広告を利用したプロモーションとリピーター獲得に向け返礼品拡充や寄付者を対象にしたファン感謝祭のような事業を展開し</p>

ていく。
<b>㊸移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす</b>
「移住相談（問い合わせ）件数（年間）」は現状値を上回った。引き続き、高畠に住みたくなるような魅力ある地域資源やイベント等を、SNSを活用しながら発信していく。「空き家バンクの成約数」は、実績がなく現状値を下回った。空き家バンク活用による移住希望者が多いが、登録物件が不足していることが課題となっているため、引き続き空家所有者へのPRを続けていく。

## 5. 令和2年度の総括と今後の取り組みについて

第6次高畠町総合計画の2年目にあたる令和2年度の指標の達成状況は、令和元年末から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける結果となりました。まちづくりにおいても、経済の分野に限らずの全ての分野に影響が表れています。

社会生活を営むうえで「人が集う」ことは物事を創造し達成するための重要な要素となりますが、感染防止を図る観点から全国的にも人が集うことが制限されたことにより活動も制限され、指標の多くが現状値から後退する結果となりました。

令和2年度はそのような状況でしたが、特筆すべき点としてライフステージ2《「育つ」ひとのために》の指標が前年度同様高かったことが挙げられます。当町は子育て環境の充実に力を入れていますが、「町全体で子育てを支援する環境を強化し、子どもが笑顔で育つことのできる町をめざす」という町の姿勢が、感染防止対策を図りながらも推進された結果だと推測されます。

一方で、経済活動や働き方に関するライフステージは全体的に後退しました。この分野は新型コロナウイルス感染症による影響を最も強く受けた分野と言えます。また、前回令和元年度の調査においてもこの分野は全体の中で低い進捗となっています。従来の産業の発展を図る一方で、時代に応じた新しい働き方の提案やwithコロナ・アフターコロナを想定した産業の振興を図っていく必要があります。

コロナ禍によって、図らずも「働き方改革」は急速に進みました。当町でも令和3年度に産業振興センター内にコワーキングスペースを整備します。今後は施設を拠点とした産業の発展や起業創業への支援が期待されます。

令和3年度は前期基本計画の中間年となり、停滞・後退している指標について前進をさせていくとともに後期基本計画の策定も視野に入れ、めざす将来像の実現に向け、各課において施策を着実に進めていきます。

第6次高島町総合計画 評価指標（KPI）ごとの進捗状況（令和2年度）

No.			施策	評価指標（KPI）	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
1)-①-1		①新しい家庭を築き、家族を増やすことを応援する	家庭を築くことについて理解を深める機会をつくります	乳幼児とのふれあい体験の実施回数（年間）	3回	-	0回	×	健康長寿課	思春期といのちの授業（高島高校）	新型コロナウイルス感染症対策からふれあい体験は実施できません。
1)-①-2			出会いの場や交流できる機会を増やします	結婚推進関連事業への参加者数（年間）	200人	150人	129人	×	生活環境課	高島町結婚推進支援事業補助金	コロナ禍のため補助金の交付対象となる事業回数が減ったことと、参加者の減少が要因である。
1)-①-3			結婚する若者や子育て世帯の新生活を応援します	高島町若者定住促進事業による支援件数（累計）	120件	74件	88件	○	建設課	若者定住促進事業（助成金）	町外から転入した若者世帯定住実績が4件あり、順調に推移している。今後も継続して実施する。
1)-②-1	高島町で子どもを産み育てたい人が増えている	②安心して子どもを産める環境やサポート体制を整える	子どもを産み育てたい人を応援します	子育て世代を受け入れられる地域の居場所の数	6か所	2か所	4か所	○	健康長寿課		各地区での開所を受け、子育て世代へ向け情報提供していく。
1)-②-1			子どもを産み育てたい人を応援します	妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合	95%	83.30%	92.30%	△	健康長寿課	産前産後サポート事業	母子健康手帳交付時などパンフレットの配布を継続。
1)-②-1			子どもを産み育てたい人を応援します	ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	90%	84.50%	68.80%	×	健康長寿課	乳幼児健診・健康相談、子育て相談会	子どもの年齢が上がると余裕がなくなる傾向にあるため、引き続き母親への支援を行う。
1)-②-2			妊娠から子育てまで、切れ目のない支援を行います	産後、退院してからの1か月程度、助産師や保健師等からの指導・ケアは十分に受けることができたと回答した者の割合	95%	90.40%	93.20%	△	健康長寿課	妊婦訪問、新生児・産婦訪問	継続実施していく。
2)-③-1			みんなが楽しみな子どもを大切に育てている	③子どもが健康にすくすく育つ環境を整える	地域全体で子どもがのびのびと育つ環境をつくります	子育てボランティア登録数	20人	0人	9人	○	福祉こども課
2)-③-1	地域全体で子どもがのびのびと育つ環境をつくります	学びと交流の場の数			2か所	1か所	2か所	◎	福祉こども課	サード（学びと交流の場）	2か所で開催して、午後の部をつくったことで、中学生の参加が増えるなど利便性向上が図られた。今後は、交通手段がない家庭の児童が参加できるしくみをつくり、家庭事情によらない支援体制を構築していく。
2)-③-2	子どもの健康を守る取り組みを行います	3歳児でむし歯のない幼児の割合			80%	77.10%	82.70%	◎	健康長寿課	歯科健康相談・乳幼児健診	継続実施していく。
2)-③-2	子どもの健康を守る取り組みを行います	低出生体重児の割合			減少	11.20%	5.00%	◎	健康長寿課	母子健康手帳交付、ふぁみりー学級（個別）	妊婦および周囲の家族に対し保健指導を継続する。
2)-③-3			子どもの発達過程や特性に応じた支援を行います	育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	95%	89%	70.00%	×	健康長寿課	乳幼児健診・健康相談、子育て相談会	これまで同様、関係機関と連携しながら子育ての困り感を早めに把握し対応していく。

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など	
2)-④-1	みんなが楽しみながら子どもを大切に育てている	④子育ての負担を軽減する環境やサービスを増やす	ゆとりある子育てができるよう、仕事と子育ての両立を支援します	病児保育施設との連携強化数	3か所	2か所	3か所	◎	福祉子ども課	町外病児保育施設利用数(川西町1、米沢市1、南陽市1)	近隣自治体の病児保育施設を利用する町内の子どもが一定程度いることから、先進事例3か所の視察を実施した。具体的に町内での設置・運営を検討していく。	
2)-④-1			ゆとりある子育てができるよう、仕事と子育ての両立を支援します	放課後児童クラブの定員数	372人	305人	373人	◎	福祉子ども課	—	各放課後児童クラブにおいて支援員の確保に努めていただき、目標達成することができた。安定経営化及び事業の充実化を図るために運営を法人移行又は移管を進めていく。さらに、老朽化している施設の整備についても検討していく。	
2)-④-1			ゆとりある子育てができるよう、仕事と子育ての両立を支援します	3歳未満児の待機児童数	0人	0人	0人	◎	福祉子ども課	—	女性の就業率向上に伴い3歳未満児の入所率が高まっているが、出生前受付の実施により保護者のニーズに合わせて入所支援することができた。	
2)-④-1			ゆとりある子育てができるよう、仕事と子育ての両立を支援します	積極的に育児に参加している父親の割合	70%	56.50%	64.80%	△	健康長寿課	ふぁみりー学級(個別)	新型コロナウイルス感染症対策のため個別で実施。	
2)-④-2			子育て世代の経済的負担を軽減します	資格取得等の支援による就労人数(累計)	5人	1人	3人	○	福祉子ども課	ひとり親家庭生活応援給付金及び住まい応援給付金事業	現在受給中の1人はR3年度末卒業見込みで、国家資格取得後就労予定。R4年度で累計4人の実績見込み。修業できるひとり親が少なく、対象に限られる事業であるが、通学応援給付金の新設など充実を図りながらひとり親の収入増を支援していく。	
2)-④-2			子育て世代の経済的負担を軽減します	子育てについて困る町のひとり親の割合	35.60%	45.60%	23.80%	◎	福祉子ども課	子ども家庭支援コーディネーターの配置、子ども家庭福祉相談、サード(学びと交流の場)、ひとり親家庭生活応援給付金及び住まい応援給付金事業	ひとり親への支援策の充実により、ひとり親の悩みとしてH28年に最多だった「子育て」がR2年度調査で減少。21.8%改善となった。今後は、現状で最大の「経済的負担感」に対して支援の充実を図り、ひとり親の子育てと就業の両立、生活や心の安定を図っていく。	
2)-⑤-1			⑤課題を抱える子を育てる親が安心できる環境を整える	地域で安心して暮らせる保育・教育・医療体制を整えます	医療的ケア児に関する協議の場の設置	設置	-	有 (広域設置)	○	福祉子ども課	置賜地域医療的ケア児支援連絡会(H30年度に広域で設置され、参画)	庁内における保健、福祉、保育、教育の連携をさらに強化し、支援体制を構築していく。
2)-⑤-2				親同士が悩みを共有できる交流の場をつくります	交流の場の開催回数(累計)	5回	-	17回	◎	福祉子ども課	育児講座	屋内遊戯場の子育て支援センターの行事として開催。町内の方を優先に参加を募ったが、町外の方の申込が多く、町内向けPRの仕方を工夫していく。働いている保護者のために、土曜日の開催も実施し、交流の場を増やしていく。
3)-⑥-1	⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	人生を自ら切り開き豊かにする力を育みます	自ら課題を解決しようとする子どもの割合	69%	66.05%	65.79%	△	教育総務課	探究型の学習の推進 主体的・対話的で深い学びの実現	コロナ禍により、探究的な課題には取り組みづらい状況ではあったが、一人一台端末の導入により、今後ICTを活用した主体的な学びが期待できる。		
3)-⑥-2		他者を思いやる心を育てます	自己を肯定できる子どもの割合	82%	80.90%	80.86%	△	教育総務課	道徳教育の推進	道徳の教科化により、道徳科の確実な実践が進んでいる。		

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など	
3)-⑥-3		⑥子どもたちの中にある力を伸ばす教育を行う	生まれ育った町を愛する心を育てます	地域や社会をよくしたいと考える子どもの割合	57%	52.85%	61.96%	○	教育総務課	地域教材を活用した授業の推進	コロナ禍により、地域行事が中止になったり、地域の方と関わる授業が行えなかったりし、地域を意識する機会が十分にもてなかった。	
3)-⑥-4			安心して学べる教育環境を整えます	学校への地域人材の参加人数(年間)	増加	1,066人	765	×	社会教育課	地域学校協働本部の開催。学校支援活動の実施(登下校見守り、環境整備等)	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動を中止・縮小・制限した。学校を核として地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業を展開し、地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに地域コミュニティの活性化を図っていく。	
3)-⑥-4			安心して学べる教育環境を整えます	大規模改修対象校(4校)の改修進捗率	25%	-	-	△	教育総務課	消防設備更新工事(高・亀・和小)、亀岡小学校バリアフリー改修工事	「高島町立小学校のあり方について」の報告書や老朽度調査の結果により、統廃合も視野に入れ、再度検討していく必要がある。	
3)-⑦-1			誰もが学びたい環境をつくれます	生涯学習講座への参加人数(年間)	維持	14,000人	4,910	×	社会教育課	地区自治公民館連絡協議会。地区づくり計画による研修会等。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動を中止・縮小・制限した。自主的な活動を促し、事業が再開できるよう支援をしていく必要がある。事業内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。	
3)-⑦-1	学びの場が充実して、魅力ある“高島人”が育っている	⑦学ぶ気持ちを大切に、地域の教育力をアップさせる	誰もが学びたい環境をつくれます	図書館の利用者数(年間)	21,000人	16,100人	36,957	◎	社会教育課	図書の貸出、学習室や閲覧席整備、企画展など読書案内	コロナ禍にあって、自主事業など制限付きで実施するものも多かったが、企画展などの読書案内で利用を増やすことができた。新図書館がオープンした元年度の実績値には及ばないものの、2年度は定着した利用の実績と考える。今後は展示室の活用も積極的に取り入れ、読書案内などと連携させて利用促進を図っていく。	
3)-⑦-1			誰もが学びたい環境をつくれます	出前講座・町民講座の利用者数(年間)	維持	2,500人	565	×	社会教育課	まちづくり出前講座、たかはた町民講座	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動を行う実施団体が少なかった。積極的な取り組みは行わず学校で活用できるように授業向けメニューを検討する。	
3)-⑦-2			地域のつながりによる学びの場を広げます	地域における学びの場の数	増加	127か所	128	◎	社会教育課	自治公民館99館、社会教育施設21館、他8施設	世代交流・学びの場・体験活動の拠点として「場づくり」の充実を展開していく。	
3)-⑦-3			学んだことを生かし、人を育てるしくみをつくれます	地域の先生登録者数(地域人材バンク)	100人	-	11	×	社会教育課	たかはた町民講座(登録講師)	登録講師の減少。新たなメニューと若年層の講師確保を行う。	
3)-⑧-1			⑧「ちがいを認めることができる人」を増やす	一人ひとりを大切に、お互いを尊重する心を育てます	児童生徒に対する人権教育・福祉教育の実施回数(年間)	12回	7回	5回	×	統合	各小・中学校において人権教室を実施	コロナの影響により、実施できない学校もあった。
3)-⑧-1				相談者の心に寄り添った相談、支援を行います	支援者の資質向上のための研修実施回数(年間)(民生委員・児童委員・老人福祉相談員・人権擁護委員・教育相談員研修会数)	維持	12回	33回	◎	統合	高島町民生委員児童委員協議会研修会(災害時の民生委員・児童委員の役割/活動事例紹介「幸町三の防災の取組」、外部団体との会議や研修会に参加、人権啓発講演会の実施、教育相談員研修会の実施	毎月の月例会や全員研修などを実施。継続して民生委員・児童委員の資質向上を図る。(民児委)、感染防止対策を図りながら、今後も継続して行っていく。研修や会議の中で民生委員等との情報共有を行い、連携して相談や支援を行っていく。(民児委)、人権擁護委員の資質向上のための研修会であるが、コロナの影響により中止となった。(人権委)、コロナ禍により十分に行えなかった。(教相委)

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
4)-⑨-1	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑨若者があこがれる「かっこいい」産業を増やす	「かっこいい」「もうかる」農業づくりを支援します	農業産出額	82億円	78.7億円	86.7	◎	農林振興課		市町村別農業算出額(推計) ※農林業センサスを基にした国による推計
4)-⑨-1			「かっこいい」「もうかる」農業づくりを支援します	若者の就農者数(年間)	維持	5人	5人	◎	農林振興課	認定新規就農者3名、その他2名	今後も、就農希望者の実情に応じた就農相談をおこなっていく。
4)-⑨-1			「かっこいい」「もうかる」農業づくりを支援します	町公式YouTubeチャンネル農業番組制作本数(累計)	20本	1本	2本	△	農林振興課	つや姫PR動画の作成	公式youtubeによる配信ではないが、アスパラガス栽培者向けPR動画を3本作成しており、次年度以降も新規作成を継続の予定。
4)-⑨-2			商工業の維持・発展のための支援をします	製造品出荷額	7,044,349万円	5,789,941万円	5,769,362万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は令和元年の数値)新型コロナウイルスの流行で急速に景気が悪化したことから、需要回復や経営の効率化、事業の多角化を目指す事業所を応援し、厳しい経営環境での事業の維持・発展を図るため、設備投資等補助事業を継続していく。
4)-⑨-2		商工業の維持・発展のための支援をします	商業年間商品販売額	2,869,855万円	2,731,634万円	2,731,634万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は平成28年の数値)新型コロナウイルスの流行で急速に景気が悪化したことから、需要回復や経営の効率化、事業の多角化を目指す事業所を応援し、厳しい経営環境での事業の維持・発展を図るため、設備投資等補助事業を継続していく。	
4)-⑩-1		多様な連携による「もの・こと」づくりを推進します	製造業付加価値額	26,888百万円	22,100百万円	22,677百万円	×	商工観光課	・製造業設備投資等補助事業 ・新事業活動推進サポート補助事業	(実績は令和元年の数値)令和2年度は新型コロナウイルス流行の影響により売上の減少や原材料不足による減産を強いられる製造業者が多かった。資金繰りや設備投資、事業の多角化、販路拡大などをサポートする事業を引き続き実施して製造業の振興を図っていく。	
4)-⑩-2		町内資源のフル活用による産業発展を支援します	農商工観連携事業の支援数	10事業	-	0事業	×	統合	新事業活動推進サポート補助事業(商工)	令和2年度は新事業活動推進サポート事業への応募者がいなかった。事業の周知を強化し、事業所の積極的な取り組みを支援していく。	
4)-⑩-2		町内資源のフル活用による産業発展を支援します	町外企業との連携事業数	7事業	2事業	0事業	×	商工観光課	・新事業活動推進サポート補助事業 ・地域企業団体交流事業	新型コロナウイルスの影響で展示会の中止が相次いだため、出展の機会が消失し、交流事業の実施が困難となった。オンライン商談会など可能な形での交流を行いながら情報収集や連携の機会を確保するよう努める。	
4)-⑩-2	町内資源のフル活用による産業発展を支援します	町内農畜産物の新規需要取引数	5	-	1	△	農林振興課	特になし			
4)-⑩-2	町内資源のフル活用による産業発展を支援します	地産地消取り組み事業数	33事業	28事業	28事業	△	農林振興課	関係機関における取組事業数28事業	関係機関と連携し、取組の継続をすすめる。		



No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
4)-⑩-2	技の継承と新たな取り組みで、産業に活力が生まれている	⑩資源や人のつながりで、地域産業を盛り上げる	町内資源のフル活用による産業発展を支援します	たかはたブランドの認証数	40商品	30商品	31商品	○	商工観光課	・「広報たかはた」でブランド認証商品を募集	「たかはたブランドカード」を活用し、たかはたフェア等の催事でPRを行い知名度向上を図ってきた。年1回のたかはたブランド認証審査会にて既存商品のブラッシュアップ募集を図るものの、認証商品の拡充までには至っていない状況である。
5)-⑪-1			多様な働き方ができるよう支援を行います	情報提供手段の増加	4ツール	1ツール	2ツール	○	商工観光課		現在、書面、ホームページ等での情報提供を行っているが、フェイスブック、メールマガジンなど情報提供手段を増やしていく。
5)-⑪-2		⑪一人ひとりの生活に合った多様な働き方の選択肢を増やす	やりがいのある仕事と出会う機会を作ります	新規高等学校卒業求職者の県内への就職率	80.20%	74.60%	72.57%	×	商工観光課	・町内企業説明会	近年の県内就職者は約7割で推移している。高島町雇用対策協議会と連携し、企業の人事担当者や高校の進路指導担当とも情報を共有しながら、町内企業への興味関心を高めることができるような方策を実施していく(職業体験会、企業説明会、ガイドブック配布など)。
5)-⑪-2	夢や希望が実現しやすいスタイルに合った働き方ができる		やりがいのある仕事と出会う機会を作ります	職業体験・企業説明会に参加した小中高校生の人数(年間)	280名	200名	69名	×	商工観光課	・職業体験、町内企業説明会	令和2年度は高島高校での企業見学バスツアーが中止となったが、職業体験会を新たに実施し町内企業や仕事について知る機会を設けることができた。置賜地区雇用対策協議会実施の職業体験会にも町内企業が参加することで周辺市町の高校に通う生徒にもアピールできるようにしていく。
5)-⑫-1		⑫新しいビジネスを創出しやすい環境を整える	創業・起業に役立つ情報を提供します	創業セミナーの受講者数(年間)	15人	15人	11人	×	商工観光課	・創業支援補助事業	商工会主催の創業セミナーは先着10名程度の定員で実施しており、参加者数は毎回ほぼ定員に達している。町広報への掲載で町民に広く事業を周知しているが、起業に至った実例や、各種優遇を受けられることなどのセミナー参加によるメリットを発信して起業への関心を高めていきたい。
5)-⑫-2			総業・起業を支援します	町の支援により創業・起業した者(社)の数	18件	8件	3件	×	商工観光課	・創業支援補助事業	創業セミナー参加者を対象とした開業経費の補助事業を活用し、起業意欲の高い人材に必要な知識と資金を提供できるよう支援を継続していく。

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
6)-⑬-1	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑭安心して快適に生活できる環境を整える	自然の恵みを生かしたくらしを広げます	自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数(年間)	維持	31回	24回	×	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植菌授業 3回 対象者:高畠中学校(2+1学年) 18名 1回、高畠高校(2、3学年) 2名 2回</li> <li>・多面的支払交付金制度による生き物調査 3回 対象者:10名</li> <li>・県、ステージアンサンプルと町の協定に基づく絆の森事業 2回 対象者:25名</li> <li>・ゆうきの里さんさんを利用した農業体験数 0回</li> <li>・河川の水質調査</li> <li>・デイキャンプ、自然散策トレッキング他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染予防のため、高畠小学校を対象に毎年実施している森林学習は開催できなかったが、交付金事業を活用することで、多くの方を対象に代替となる植菌授業など事業を実施できた。また、民間事業者が主体となった森林環境整備を実施できた。今後も交付金を活用し、幅広く木育の推進を図る。</li> <li>・環境学習の主軸を地球温暖化対策とし実施していることから、現状維持の取組を続けていく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動を中止・縮小した。感染拡大防止に伴う活動実施ガイドラインを作成して提供可能な活動内容を検討していく。</li> </ul>
6)-⑬-2			自然に親しみながら、のんびり、ゆったり暮らしたい人を応援します	田舎暮らし体験者数(累計)	10人	-	0	×	企画財政課		該当事業無し
6)-⑭-1			安心な暮らしを支える公共インフラの整備をすすめます	橋梁の老朽化対策実施数(累計)	18橋	5橋	9橋	○	建設課	道路メンテナンス事業(橋梁補修・橋梁更新)※国庫補助	国庫補助事業により、修繕工事及び更新(ボックスカルバート)を行ったほか、用水路に架かる橋梁については、協議のうえ、水路管理者において修繕を行った。今後も計画的に実施し、目的達成を図る。
6)-⑭-1			安心な暮らしを支える公共インフラの整備をすすめます	都市公園リニューアル事業(遊具施設)実施数(累計)	3公園	1公園	2公園	○	建設課	都市公園の長寿命化事業(交付金)	まほろばの緑道(高畠駅南)と最上川河川敷兼野目緑地の遊具施設について更新を実施した。次年度は中央公園多目的広場の更新を計画している。
6)-⑭-1			安心な暮らしを支える公共インフラの整備をすすめます	歩道整備総延長	45.245km	44.245km	0.526km	○	建設課	交通安全対策事業(歩道設置)※交付金、国庫補助	町道本町泉岡線(歩道設置延長L=283.0m)、町道高畠小学校西線(歩道設置延長L=243.0m)の歩道工事を実施し、町道高畠小学校西線については完成。今後も計画的に歩道設置工事を行う。
6)-⑭-1			安心な暮らしを支える公共インフラの整備をすすめます	水道管路の耐震化率	23%	20%	20%	△	上下水道課	高畠地区老朽管更新事業	令和2年度より高畠地区老朽管更新事業に着手したが、耐震管に更新した距離は約0.6km。耐震化率を1%向上するには約2.2kmの更新が必要となるため、進捗状況は現状値と同等となった。令和3年度は高畠地区老朽管更新事業で1.2km、他事業で1.0kmの更新を計画し、耐震化率の1%向上を目指す。
6)-⑭-2			ずっと住み続けたいくなる住環境づくりを推進します	高畠町住宅リフォーム支援事業による支援件数(年間)	50件	48件	58件	◎	建設課	住宅リフォーム支援事業(助成金)	広報活動により広く利用活用を促している。今後も継続して実施する。
6)-⑭-2			ずっと住み続けたいくなる住環境づくりを推進します	空き家活用件数(年間)	10件	-	0件	×	建設課	空家バンクにより空家の有効活用	物件登録が少ないので、空家所有者へのPRを続けていく。

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など		
6)-⑭-3	安心して生活できる環境があり、心豊かに暮らしている	⑭安心して快適に生活できる環境を整える	冬期間の安全な生活環境づくりを行います	道路除排雪担い手確保件数	5件	0件	2件	○	建設課	町道除排雪業務	委託料補償を実施し、除雪業者の費用負担を軽減している。		
6)-⑭-3			冬期間の安全な生活環境づくりを行います	除排雪活動に継続して取り組む集落数	29集落	14集落	22集落	○	福祉こども課	集落単位での除排雪のしくみづくり支援	年間目標(3集落)以上に進められた。目標値到達に向け、引き続き各自治会への働きかけを継続する。		
6)-⑮-1		⑮みんなで地域に気を配り「もしも」の時に助け合えるしくみを広げる	地域ぐるみで災害に対応できる力を高めます	福祉防災マップ作製集落数	54集落	39集落	43集落	○	福祉こども課	集落単位での地域支え合い(福祉防災)マップづくり支援	年間目標(3集落)以上に進められた。目標値到達に向け、引き続き各自治会への働きかけを継続する。		
6)-⑮-1			地域ぐるみで災害に対応できる力を高めます	自主防災組織率	100%	81.10%	98.35%	○	総務課	地区自主防災組織連絡協議会設立支援事業 自治公民館避難施設整備事業	既存の町全体の自主防災組織連絡協議会から地区ごとの連絡協議会への転換により、地域特有の災害リスクの共有ときめ細かな研修・訓練の機会を行う環境ができたことで、地域の防災意識の高まっている。この機運を逃さず、災害に負けない町民を増やす取り組みを更に展開していく。		
6)-⑮-1			地域ぐるみで災害に対応できる力を高めます	消防団員数	785人	764人	730人	×	総務課	報酬・費用弁償の支払い方法の見直し	報酬の金額や支払い方の見直しなどの処遇改善の取り組みにより団員の確保に努めているが、少子化と人口減少の影響が大きく影響しており、団員の増加自体難しい。本町においては総務省の基準の2倍以上の団員定数(807名)となっており、今後、見直しが必要と考えている。		
6)-⑮-2			地域での犯罪や事故を未然に防ぎます	運転免許証自主返納者数(年間)	80人	63人	76	△	生活環境課	高齢者交通安全教室や各種会議の折にミニ指導を実施。	公共機関が乏しく高齢者移動手段が少ないため、他課と連携を図りながら返納を促す。		
6)-⑮-2			地域での犯罪や事故を未然に防ぎます	犯罪認知件数(年間)	45件	53件	34	◎	生活環境課	防犯協会各支部毎に青パト防犯広報や防犯啓発活動を実施。	コロナ禍の影響か、窃盗犯が大幅に減少した。今後も関係機関と連携を密にし、啓発活動の充実を図る。		
6)-⑮-2			地域での犯罪や事故を未然に防ぎます	交通事故(人身)の発生件数(年間)	85件	93件	55	◎	生活環境課	関係機関・推進団体と連携を図り、交通安全県民運動を各季毎実施。	交通事故件数は減少傾向だが、国道13号線で交通死亡事故が発生した。高齢者が関わる事故の割合が高いため、引き続き啓発活動を行う。		
7)-⑯-1			一人ひとりが健やかで、ゆるやかに生活できる人を増やす	⑯生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぎます	日頃から運動している人の割合(R2年度中に評価指標を測るための調査なし)	30%	23.86%	-	△	健康長寿課	健康マイレージ事業・健康運動講座	運動のきっかけづくりや継続のため講座を開催していく。
7)-⑯-1					地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぎます	喫煙者の割合(R2年度中に評価指標を測るための調査なし)	12%以下	24.50%	-	△	健康長寿課	禁煙支援講座	禁煙したい人が禁煙に取り組めるような支援を行うとともに防煙講座も併せて実施していく。
7)-⑯-1	地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぎます	健康に関心のある人の割合(R2年度中に評価指標を測るための調査なし)			50%	36.60%	-	△	健康長寿課	健康マイレージ事業・健康情報発信	広報等を活用し健康に関する情報をタイミングよく提供していく。		
7)-⑯-1	地域ぐるみで健康に対する意識を高め、生活習慣病を防ぎます	地域活動に参加している人の割合(R2年度中に評価指標を測るための調査なし)			30%	26.90%	-	△	健康長寿課	健康運動サポーター・食生活改善推進員養成講座	地域活動の担い手の育成と、町民の身近で活動できる場所をつくっていく。		
7)-⑯-2	こころの健康づくりを進めます	自殺死亡率(人口10万対)			13.1以下	18.7	18.2	△	福祉こども課	地域自殺対策強化事業(ゲートキーパー養成講座、普及啓発等)	R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会等当初の計画通りに実施できなかった。感染症予防に配慮しながら、関係機関との連携を強化し、計画の効果的な推進を図っていく。		

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
7)-⑩-3		⑩生涯にわたって健康で活動的に生活できる人を増やす	安心して利用できる医療サービスを提供します	後期高齢者医療の訪問診療利用者延べ人数(年間)	増加	3,804人	3,650	×	町民課	なし	後期高齢者医療被保険者数の減少で、在宅医療利用者が目標値よりも減少している状況が続いている。後期高齢者医療被保険者は施設利用者が多く、施設入所すると、医師や看護師が常駐している場合もあり、安心して医療サービスを受けられることができる。令和2年度は令和元年度よりも在宅医療利用者が若干増加しているが、これは施設利用者の増加の他、新型コロナウイルス感染予防のため、医療機関を直接受診する際の不特定多数の人との接触を避けたいという考えも多少影響しているものと考えられる。なお、訪問診療は医療費が高いため医療費の負担が減る面もある。
7)-⑪-1	一人ひとりが健やかで、ゆるやかに支え合っている	⑪地域の中でゆるやかに支え合おうし、くみを広げる	持続可能な地域のありかたを考える機会をつくり出す	集落座談会を開催した集落数(累計)	55集落	40集落	47集落	○	福祉こども課	集落単位での地域支え合い(福祉防災)マップ作成時に併催するように呼び掛ける	年間目標(3集落)以上に進められた。目標値到達に向け、引き続き各自治会への働きかけを継続する。
7)-⑪-2			得意なことを生かしたボランティア活動を広げます	ボランティアセンター登録者数	1,850人	1,751人	1,943人	◎	福祉こども課	ボランティアセンターの運営	目標値には到達した。今後、各団体の会員数減や解散などで登録者数が減少することも想定されるため、対応策が求められる。
7)-⑪-3			誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくりを支援します	地域の居場所の数	9か所	6か所	4か所	○	統合	子どもの居場所づくり運営支援事業(サード2、子ども食堂2)、茶の間5、かたくりの会	主にひとり親家庭の子どもを対象にした居場所(サード)2か所で遊びと学習支援を実施。R2年9月には町内事業者が新たに子ども食堂を立ち上げ、町内に2か所となった。各団体に町から補助金を交付。子ども食堂においてひきこもり者のボランティア活動も受け入れがあり、ゆるやかなつながりや交流の場もできている。今後は、ひきこもり者支援団体への運営支援の充実を図り、若者等の社会生活自立の促進、支え合える関係の構築支援を行っていく。
8)-⑫-1	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑫住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境を整える	豊富な経験や技能を活用した生きがいづくりと社会参加を進めます	地域の茶の間の開設数	6か所	4か所	5か所	○	健康長寿課	既存団体への指導相談と未設置地区への働きかけを実施	屋代地区に「もりの里茶の間のひなたぼっこ」を立ち上げ。今後も既存団体への指導相談と亀岡地区への働きかけを継続していくが、現在は新型コロナウイルスの感染防止の観点から活動を休止中。
8)-⑫-2			人生を元気に過ごせるよう介護予防を強化します	住民主体の介護予防の場	35か所	24か所	52か所	◎	健康長寿課	既存団体への指導相談と未設置集落への働きかけを実施	生活支援コーディネーターの働きかけもあり、10か所に新規立ち上げ。今後も既存団体への指導相談と未設置集落への働きかけに取り組む。
8)-⑬-1			高齢者の日常生活を支えるしくみをつくり出す	集落のサロン数	50か所	34か所	70か所	◎	健康長寿課	既存団体への指導相談と未設置集落への働きかけを実施	生活支援コーディネーターの働きかけもあり、4か所に新規立ち上げ。今後も既存団体への指導相談と未設置集落への働きかけに取り組む。
8)-⑬-1			高齢者の日常生活を支えるしくみをつくり出す	買い物、通院、除雪支援を行う住民主体の団体	6団体	1団体	1団体	△	健康長寿課	既存団体への指導相談	新たな団体の掘り起こしを検討したが、立ち上げに至らなかった。

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
8)-⑱-2	年を重ねても誰もが自分らしくいきいきと暮らしている	⑱住み慣れた地域で、安心して暮ら続けられる環境を整える	医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らせる体制をつくります	在宅療養(看取り)の普及啓発事業開催回数(年間)	2回	2回	0回	×	健康長寿課	「人生の終い方」講演会の開催	主に高齢者を対象にした講演会を予定しているが、新型コロナウイルスの感染を防止する為、中止とした。
8)-⑱-2			医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らせる体制をつくります	認知症サポーター数(累計)	3,000人	2,303人	2,533人	○	健康長寿課	認知症サポーター養成講座年間6回実施	継続して養成講座を開催し、認知症について理解し地域の中で支援する町民を増やす。また、サポーターの活動支援について展開していく。
8)-⑱-2			医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らせる体制をつくります	見守りネットワーク協力機関数	70か所	65か所	65か所	△	健康長寿課	認知症サポート企業認定事業	商工会の協力を得ながら新規の見守り協力企業等を増やし、認定企業についても登録数を増やす。
8)-⑱-3			介護者の負担を減らします	介護者研修会(交流会)参加者数(年間)	60人	47人	0人	×	健康長寿課	家族介護者交流会	家族介護者交流会を予定していたが、新型コロナウイルスの感染を防止する為、中止とした。
8)-⑱-3			介護者の負担を減らします	認知症カフェの利用者数(年間)	400人	347人	39人	×	健康長寿課	認知症カフェ:委託1か所、自主事業1か所	高齢者施設で開催している認知症カフェについては、コロナウイルス感染症防止のため一時中止となった。感染防止を図りながらの実施方法について検討が必要。
9)-⑳-1	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	自然を大切にすることを育みます	食農教育の実践学校数	維持	7校	7校	○	教育総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自給野菜を活用した学校給食7校</li> <li>・学校田3校</li> <li>・学校畑7校</li> <li>・弁当の日実践校2校</li> </ul>	各校で、地域の方の協力等を得ながら栽培活動等への取り組みを行っている。今後も継続して収穫の喜びなどを感じる機会を作りながら食農食育に興味を持ってもらいたい。
			自然を大切にすることを育みます	自然体験教室・自然体験イベントなどの実施回数(年間)再掲	維持	31回	24回	×	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植菌授業 3回 対象者:高畠中学校(2+1学年) 18名 1回、高畠高校(2、3学年) 2名 2回</li> <li>・多面的支払交付金制度による生き物調査 3回 対象者:10名</li> <li>・県、ステーションサンブルと町の協定に基づく絆の森事業 2回 対象者:25名</li> <li>・ゆうきの里さんさんを利用した農業体験数 0回</li> <li>・河川の水質調査</li> <li>・デイキャンプ、自然散策トレッキング他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染予防のため、高畠小学校を対象に毎年実施している森林学習は開催できなかったが、交付金事業を活用することで、多くの方を対象に代替となる植菌授業など事業を実施できた。また、民間事業者が主体となった森林環境整備を実施できた。今後も交付金を活用し、幅広く木育の推進を図る。</li> <li>・環境学習の主軸を地球温暖化対策と実施していることから、現状維持の取組を続けていく。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動を中止・縮小した。感染拡大防止に伴う活動実施ガイドラインを作成して提供可能な活動内容を検討していく。</li> </ul>

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
9)-⑳-2	みんなで未来に向けたまちづくりをすすめている	⑳地域の自然や生態系を守る活動を広げる	豊かな自然を守り、次世代に継承します	有機・特別栽培水田面積	維持	712ha	674ha	×	農林振興課	特になし	水稲の作付面積の減少に伴い、有機米等の面積も減少した。今後は有機農業推進委員会と連携しながら作付け面積を増やしていきたい。
9)-⑳-2			豊かな自然を守り、次世代に継承します	耕作放棄地面積	130ha	141ha	129ha	◎	農業委員会	農地パトロール、利用意向調査	農地パトロールで発見した耕作放棄地について、所有者に利用意向調査を行うことにより、完全に管理放棄する前に、自己保全する方向に促すことができている。今後も重点的に取り組んでいく。
9)-⑳-2			豊かな自然を守り、次世代に継承します	屋代川の水質調査	2mg/L以下	1.2mg/L	0.8	◎	生活環境課	河川の水質調査	目標達成できている。
9)-㉑-1		㉑持続可能な環境づくりに取り組む人を増やす	環境にやさしいライフスタイルを定着させます	COOL CHOICE賛同者・企業数(累計)	1,100人・60団体	954人・40団体	1,030人・43団体	○	生活環境課	事業実績なし	コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント実施ができず、併せて行っていた啓発活動も実施することができなかった。
9)-㉑-2			効果的・効率的なエネルギー対策に取り組めます	公共施設の温室効果ガス排出量(年間)	5,258t-CO2	5,779t-CO2	5,253t-CO2	◎	生活環境課	照明のLED化	糠野目小学校の照明をLED化したこと等により、温室効果ガス排出量の削減に繋がった。他施設にも取り組みを広げていく。
9)-㉑-2			効果的・効率的なエネルギー対策に取り組めます	再生可能エネルギー導入容量(固定価格買取制度適用分)	9,200Kw	8,694Kw	9,033Kw	○	生活環境課	再生可能エネルギー設備導入事業費補助金	再生可能エネルギー設備導入に対し、補助金を交付し支援を行うことで導入の促進を図ることができたため、継続して取り組んでいく。
9)-㉑-3			循環型社会の形成を進めます	最終処分廃棄物量	700t/年	766t/年	810t/年	×	生活環境課	置広での可燃物焼却灰埋立、不燃物処分量	目標に向け取り組んでいる。しかし、災害でのごみ排出増加やコロナで外出自粛により片付けや買い替えが盛んになり増加している
9)-㉒-1		㉒歴史、文化遺産を守り活用し、伝承する人を増やす	歴史や文化遺産を正しく理解し、大切に守ります	歴史文化学習会の開催数(年間)	45回	42回	26	×	社会教育課	考古学セミナー、古文書講座等	R2は、コロナ関連により事業の中止・休止が相次いだことによる。R3は、コロナ禍、withコロナ時代を見越して安全を確保したうえで事業実施を試みる。
9)-㉒-2			文化遺産を活用し、潤いのある暮らしをつくれます	文化遺産の活用事業数	5事業	2事業	0	×	社会教育課		R2は、コロナ関連により事業の中止・休止が相次いだことによる。R3は、コロナ禍、withコロナ時代を見越して安全を確保したうえで事業実施を試みる。
9)-㉓-1	㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす		若者がまちや地域を知るための機会を提供します	40歳未満の若者を対象とした町・地区事業の実施回数(年間)	増加	94回	41	×	社会教育課	地区の青少年講座・成人講座	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業活動の中止が相次いだ。感染拡大防止に伴う活動実施ガイドラインを作成して提供可能な活動内容を検討していく。

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
9)-㉓-1			若者がまちや地域を知るための機会を提供します	中高生や若者によるまちづくり企画の支援回数(累計)	40回	-	(R2)12回 (累計52回)	◎	統合	まちの新人研修、東大FS、外大ST、九里学園ST、出前講座等	・成人式実行委員会を対象に「まちの新人研修(自分を知る、町を知る)」を実施し地域を知るための機会を提供していく。今後も継続して取り組んでいく。 ・首都圏の学生受け入れ事業を中心に、首都圏大学生と町内の中高生との連携を強化し、地域の魅力発見WSを開催した。コロナ禍であり全てオンラインによる実施となったが、地域に関心を持ってもらう貴重な機会となった。今後はWS内で出てきた企画を実現させるような取り組みにしていく。
9)-㉓-2		㉓夢や志を持ち活躍する若者を増やす	夢や志を持つ若者を応援します	若者活動団体による若者を対象とした事業・活動の実施回数及び参加者数(年間)	増加	14回・520人	1回・32人	×	社会教育課	青年団体連絡会「蛭沢キャンプ場甦らせプロジェクト」	コロナ禍を見越して安全を確保したうえで自主的な活動を行った。携わる青年団体連絡会構成員の活動を支援し、事業を再開していく。事業規模・内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。
9)-㉓-2	みんなに未来に向けたまちづくりをすすめている		夢や志を持つ若者を応援します	若者の夢や志を支援するプロジェクト事業実施回数	5事業	-	(R2)5事業 (累計9事業)	◎	統合	・(再掲)青年団体連絡会「蛭沢キャンプ場甦らせプロジェクト」 ・東大FS、外大ST	・(再掲)コロナ禍を見越して安全を確保したうえで自主的な活動を行った。携わる青年団体連絡会構成員の活動を支援し、事業を再開していく。事業規模・内容に合わせて関係機関と連携した取り組みを行う。 ・東大FSの中で、町内の中高生を対象とした10年後の将来像を共に考える特別授業を実施。中高生にとって新たな気付きを得る機会となった。継続的に中高生の進路を支援する体制を構築していく。
9)-㉔-1		㉔協働でまちづくりを進めるための環境を整える	町民が参加・参画しやすい協働のしくみをつくります	町民とのまちづくりワークショップや人材育成事業の実施回数(累計)	100回	27回	(R2)37回 (累計76回)	○	統合	・東大FS、ブランド戦略プロジェクトチーム(人材育成) ・総務課との共催による「防災セミナー・地域福祉シンポジウム」の開催(地域防災の考え方と進め方～自主防災組織について考える～) ・たかはた農とびあ実行委員会開催回数 8回	・コロナ禍で町民対象とした事業は実施できていないが、オンラインによる首都圏大学生とのWSや職場内での人材育成を目的としたWSを開催した。R3東大FSでは、学生と共にコロナ禍でも継続できるオンラインを活用したまちづくりプログラム等を開発する計画である。 ・防災視点での福祉課題を提起し、個人としてかつ地域でどのように対応するか考えてもらう機会となった。引き続き福祉課題の提起を続け、当事者意識を持ってもらう機会をつくって行く。 ・若手農業者を主体とし、農業者間のネットワーク構築と互いに学び合う場づくりを目的に開催。参加者からの好評を得ており、次年度以降も継続開催の見込み。
9)-㉔-2			将来を見据えた行財政運営と職員育成を進めます	財政力指数	0.387%	0.387%	0.405	◎	企画財政課		町民税法人税割や地方消費税交付金などの増により、基準財政収入額が増加したため。
9)-㉔-2			将来を見据えた行財政運営と職員育成を進めます	派遣研修受講職員の延べ人数	120人	110人	71人	×	総務課		専門分野派遣(10名)、県研修所(58名)、置研協(3名)延べ71名

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10)-㉔-1	高畠町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	㉔町内外に町の魅力を効果的に発信する	高畠町といったらこれという町の魅力を再発見します	ふるさと名物応援宣言による地域ブランド商品サービスの開発件数	5件	-	0	△	商工観光課	ふるさと納税返礼品事業	ふるさと名物応援宣言の実施には至っていないが、ふるさと納税返礼品開発事業において、新商品7つを追加することができた。また、高畠の農産物と加工品を組み合わせた返礼品も登録し、高畠の食のポテンシャルを全国へ発信できている。今後も、ふるさと納税制度を活用したブランド戦略を進めていく。
10)-㉔-2			戦略的なプロモーションを行います	首都圏プロモーションの実施回数(年間)	10回	5回	1回	×	商工観光課	首都圏プロモーション事業	町の観光事業の拠点である㈱エイコウに業務委託し、「高畠オンラインモニターツアー 雪中花見と美酒の宴」を実施。首都圏在住の方を対象に募集し、定員20名の参加をいただいた。アフターコロナを見据え、オンラインによる関係機関との連携を強化することができた。今後も継続して、季節ごとにメニューを変えながらプロモーション事業を展開していく。
10)-㉔-1		㉔高畠町ならではの発信による観光を生み出し、訪れる人を増やす	観光者の滞在時間を増やす新たな観光プログラムをつくります	町内宿泊者数(年間)	34,372人	29,372人	14,162	×	商工観光課	町総合観光推進協議会事業	新型コロナウイルスの流行が大きく影響し、観光客数、宿泊者数が激減している。コロナ禍の中でも出来ることとして、現在、観光資源の発掘及び磨き上げに取り組んでおり、高畠ならではの新たな観光プログラムをつくり、誘客を図っていきたい。
10)-㉔-1			観光者の滞在時間を増やす新たな観光プログラムをつくります	外国人宿泊者数(年間)	5,000人	484人	94	×	商工観光課	町総合観光推進協議会事業	新型コロナウイルスの流行が大きく影響し、町内を訪れる観光客数が激減していることも影響している。コロナの終息まで外国人観光客の誘客は難しだが、終息後に向けて魅力ある滞在型メニューづくりに今後取り組んでいく必要あり。
10)-㉔-2			高畠町ならではの観光情報の発信を強化します	町公式ホームページ観光サイトの閲覧数	10,000回	-	11,700	◎	企画財政課	町公式ホームページ観光サイト令和2年度閲覧数	コロナ禍でイベントが限られ、情報の更新が滞った。たかはたブランドや町の観光資源についてページを作成し、自宅にいても情報が得られるようなサイト作りを行う。
10)-㉔-2			高畠町ならではの観光情報の発信を強化します	町の魅力発信ワークショップ参加者数	120名	-	0	×	商工観光課		コロナ禍も影響し実施できていないが、今後の開催にむけて検討していく。
10)-㉔-2			高畠町ならではの観光情報の発信を強化します	町公式YouTubeチャンネル再生回数	100,000回	17,761回	40,626	○	企画財政課	町公式YouTubeチャンネル再生回数(累計)	新規動画を31本更新した。(最高2219回、平均238回)コロナ禍で開催が難しい講座等の動画配信を検討する。
10)-㉔-1			㉔交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	さまざまな場所から人が訪れ、高畠町を体感できる機会を増やします	町内農業体験者数(年間)	700人	513人	0	×	農林振興課	・ゆうきの里さんさんを利用した農業体験者数、屋代村塾、修学旅行受入れの実績なし
10)-㉔-1	㉔交流力を高め、高畠町を応援する人や地域を増やす	さまざまな場所から人が訪れ、高畠町を体感できる機会を増やします	熱中小学校プロジェクトによる交流人口(年間)	2,500人	2,281人	493	×	企画財政課	熱中小学校プロジェクト	オンライン形式の導入や運動会等のイベント中止による、来校者の減。	



No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10)-⑰-2	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、移り住む人が増えている	⑰交流力を高め、高島町を応援する人や地域を増やす	継続して高島町と関わりを持つ団体・企業・地域を増やします	県外の企業・自治体・大学等と協働で3年間以上継続して行っている事業の数(累計)	10件	6件	(R2)9件 (累計)18件	◎	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、立教大学交流連続講座の開催はできなかったが、福祉のまちづくり推進委員会には委員長として立教大学コミュニティ福祉学部の西田の教授が参加</li> <li>・道の駅村田での農産物販売</li> <li>・自治体(横浜市栄区・横浜市旭区、東京都江戸川区・宮城県山元町)との物産展を通しての交流事業</li> <li>・トレッサ横浜(大型ショッピング店)での物産販売・町PR事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスによる栄区民まつりの中止</li> <li>・立教大学交流連続講座については、単独開催は行なわず町事業等で講演会がある場合には積極的に立教大学に講師派遣を依頼するなど庁内で連携していく。</li> <li>・R2から道の駅村田での農産物販売が定例開催となった。</li> <li>・商工観光課において現在は4自治体と1企業との交流事業が続いているものの、昨年度よりコロナ禍で事業が中止となっている。東京外国語大学や東京大学とのスタディーツアーはオンラインのみであるが事業が継続しており、九里高校のスタディーツアーも始まり、目標値に近づきつつある。今後も様々な機会から、新たな交流事業の実施に繋げていきたい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止した(墨田区交流事業)。R3は、コロナ禍、withコロナ時代を見越して安全を確保したうえでの事業実施を試みる。</li> </ul>
10)-⑰-3			町外にいても高島町を応援してもらえるしくみをつくります	都市部で主催する交流事業の参加者数(年間)	100人	50人	0	×	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみだまつりにおける農産物販売の参加者数 0名</li> <li>・東京高島まほろば会との交流事業</li> <li>・友好都市との交流事業</li> <li>※上記はコロナのためすべて事業中止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すみだまつりへは30回を超える参加回数となっており、参加者の世代交代をおこないながら継続している。</li> <li>・当面の間はコロナ禍で都市部での事業展開は困難であるため、各種催事に参加いただいた方々等の顧客情報を活用し、SNS等での情報発信を行っていきけるよう取り組みたい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業を中止した(墨田区交流事業)。R3は、コロナ禍、withコロナ時代を見越して安全を確保したうえでの事業実施を試みる。</li> </ul>
10)-⑰-3			町外にいても高島町を応援してもらえるしくみをつくります	ふるさと納税の申込延べ人数(年間)	2,500件	1,509件	8,023件	◎	商工観光課	ふるさと納税サイトを6サイトに拡大し、管理・配送業務を一本化	ふるさと納税サイトを拡大し、返礼品登録を200品以上に増やすことで、新規のお客様より大幅に申込件数が増大した。R3年度はWEB広告を利用したプロモーションとリピーター獲得に向け返礼品拡充や寄付者を対象にしたファン感謝祭のような事業を展開していく。
10)-⑱-1		⑱移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人を増やす	高島町に住みたくなるきっかけをつくります	移住相談(問い合わせ)件数(年間)	100件	8件	41件	○	統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口、電話、イベントでの相談件数</li> <li>・空家バンクの活用、若者定住促進事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、高島に住みたくなるような魅力ある地域資源やイベント等をSNSを活用しながら発信していく。</li> <li>・空家バンク活用による移住希望者が多いが、登録物件が不足している。</li> </ul>
10)-⑱-2			高島町に移り住む人を応援します	空き家バンク成約数(町外の方の累計)	50件	1件	0件	×	建設課	空家バンクにより空家の有効活用	物件登録が少ないので、空家所有者へのPRを続けていく。

No.			施策	評価指標 (KPI)	目標値	現状値	R2末実績	進捗状況	担当課	R2 指標の主な事業	R2 実績値に対する現状分析、今後の取り組み方針など
10)-⑧-3	高島町の魅力が伝わり、訪れる人、戻る人、移り住む人が増えている	⑧移住・定住しやすい環境を整え、戻ってくる人、移り住む人が増えている	移住した人たちが長く住み続けられるようサポートします	移住者支援事業の開催回数(年間)	3件	0件	2回	○	統合	やまがたハッピーライフカフェ、山形U・Iターンフェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、高島に住みたくするような魅力ある地域資源やイベント等をSNSを活用しながら発信していく。</li> <li>やまがたハッピーライフカフェ、山形U・Iターンフェアは山形県等との共同での開催に参加したもの。</li> </ul>